

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	高知県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	大月町立弘見小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数 12
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	
児童数	34	29	28	33	27	22	4	177	

II 研究の概要

1. 研究主題

生き生きと主体的に活動できる児童の育成
 — 基礎・基本の定着と学力の向上を通して —

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

* 1～6年生国語
 基礎学力の基本であり、また、当該教科に関する研究実績があるため。
 * 1～6年生算数
 基礎学力の定着を図りたい教科であるとともに、児童の理解の状況に差がでやすい教科であるため。

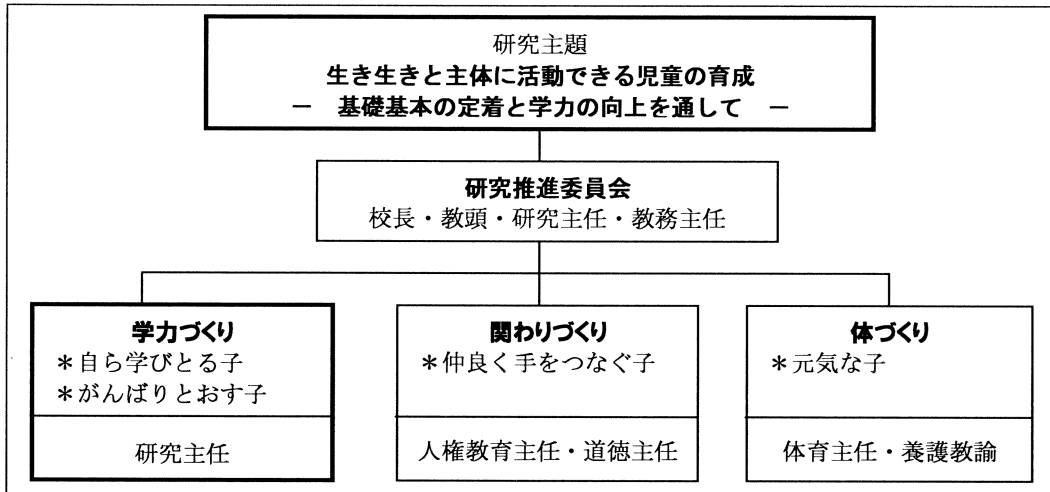
(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>* テーマ 基礎学力の定着・学力の向上を目指す授業づくり</p> <p>* 研究の仮説</p> <p>step1 「生き生きと主体的に活動できる児童の育成」⇒「生きる力」を育むこととしてとらえよう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>step2 「生きる力」を育むための要素として、「体づくり」「関わりづくり」「学力づくり」の3つの「づくり」を重要視しよう。その中でも「学力づくり」に焦点をあてよう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>step3 「学力づくり」の基盤を「学級経営の充実」「授業時数の確保」「学習規律の定着」「家庭学習の定着」「家庭との連携」と考えることで、主題にせまれるのではないかと。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>step4 「CRT」の実施・「個人カルテ」を作成し、学力の実態を把握しよう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>step5 学力づくりの取り組みとして、「授業の改善・工夫」「授業形態の模索」「基礎学力定着の時間」に取り組むことで主題にせまろう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>step6 評価として、「アンケート」「授業評価システム」「評価規準」「学校評価」を実施し、実践を検証しよう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>step7 評価をフィードバックし、継続的な取り組みにし、研究を積み重ねていこう。</p>
--------------------	--

平成 15 年度	<p>* 研究の内容・方法</p> <p>◆ 学力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学力づくりの基盤 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 学級経営の充実 ◇ 授業時数の確保 ◇ 学習規律の確立 ◇ 家庭学習の定着 ◇ 家庭との連携 ◇ 基礎体力の定着⇒「体づくり」との連携 ➢ 実態の把握 <ul style="list-style-type: none"> ◇ CRT 学力検査 ◇ 学力個人カルテ ◇ 形成的評価 ◇ 基礎基本の実態把握 ➢ 取り組み <ul style="list-style-type: none"> ◇ 授業の改善工夫 <ul style="list-style-type: none"> ● 授業研究 ● 授業観の変革⇒「やらされる学習」から「やる学習へ」 ◇ 授業形態の模索 <ul style="list-style-type: none"> ● TTによる指導 ● 少人数指導 ● 習熟度別指導 ● 担任交換授業 ◇ 基礎基本の定着 <ul style="list-style-type: none"> ● 反復学習⇒共有の教材 ● 弘見タイム ➢ 評価 <ul style="list-style-type: none"> ◇ アンケート（児童・保護者） ◇ 学校評価の実施と公開 ◇ CRT⇒前回との比較分析 ◇ 授業評価システム ◇ 評価規準
----------------	--

平成 16 年度	<p>* テーマ 基礎学力の定着・学力の向上を目指す授業づくり</p> <p>* 研究の見通し</p> <p>15年度を基盤として、テーマである「基礎学力の定着・学力の向上を目指す授業づくり」の研究を深める。研究の3本柱である「学力づくり」「関わりづくり」「体づくり」の3つを関連づけながら、「学力づくり」に焦点を当てた取り組みを重視するものとする。</p> <p>* 研究の内容</p> <p>フロンティア事業2年目であるので、基本的には、平成15年度の研究を基盤としながら、内容・質の向上を目指すものとする。数値等の客観的なデータによる児童の学力分析等についても重視したい。</p> <p>また、テーマと関連づけた「授業」を通した「基礎基本の定着」「学力の向上」についての研究内容を深め、ひとりひとりの教員自身の指導力の向上・授業の質的向上を目指す。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制

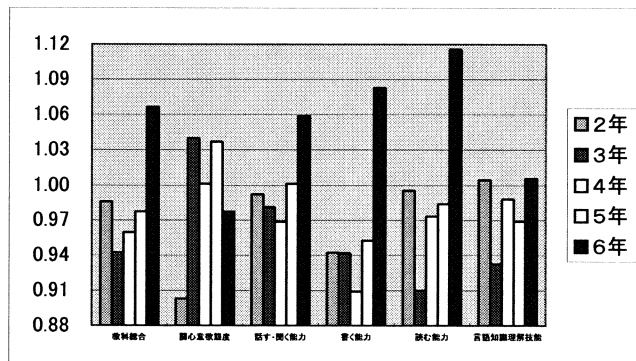


Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- * 授業の改善工夫
 - ・ 外部講師を招聘したことで、新たな視点で授業づくりについて、考えることでき、授業内容が高まり、児童の学力向上につながった。
 - ・ 学力向上の基盤となる集中力、やる気を育む学級指導・学級経営を充実することが重要。
 - ・ みんなで学び合える、支持的風土のある学級経営が望まれる。
 - ・ 研究授業に全員が取り組み、それぞれの個性や授業について協議することで、授業の質的向上や授業者の課題を見つけることができた。
- * 授業形態の模索
 - ・ 試行錯誤しながら、TT指導・少人数指導・習熟度別指導に取り組んでいくうちに、単元や授業内容に応じた、指導形態がとれつつある。
 - ・ 児童へのアンケート等を通して、授業形態への児童の反応を確かめながら取り組むことができた。
- * 基礎基本の定着
 - ・ 学級を解体して、全校で実施した弘見タイムは児童自らが主体的に取り組み効果的であった。
 - ・ 15分の反復学習は計画的・継続的な取り組みができ、有意義であった。
 - ・ 継続すること。続けることが基礎学力定着の基盤となる。
- * その他
 - ・ 児童のやる気を育むためには、身体活動量と大脳活動水準との関係が基盤となっており、「やらさせる」のではなく、児童自らが「やる」運動を行うことで、やる気が育ち、そのことが学力向上につながる。
- * CRTの一部の結果

4月実施国語の結果
1月実施分は結果待ち
※ 全国通過率を1とみた時の本校割合



2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> * 授業の改善工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員が研究授業を行ったが、視点がやや不明確であったために、焦点化した十分な協議ができなかった。次年度は判然としたテーマや課題をもった授業研究を行うことで、学力の向上を目指したい。 * 授業形態の模索 <ul style="list-style-type: none"> ・ TTでの授業が主であったため、もっと多くの少人数指導や習熟度別の指導を行い、その中からメリットやデメリットを把握しなければならない。 ・ 学級担任外の教員と学級担任とのきめの細かい打ち合わせの時間が必要である。そのための時間確保も必要。 ・ TTの授業の場合、主になる教員と従になる教員で授業内容を把握し、互いに主になったり、従になったりできる柔軟な体制づくりが大切である。 * 基礎基本の定着 <ul style="list-style-type: none"> ・ 弘見タイムは各学級で、独自の取り組みができるメリットはあるが、全校的に、系統的な取組も考えていく必要がある。 ・ 反復タイムや弘見タイム用のひとりひとりの児童に応じた教材の開発が必要である。

IV 学力等把握のための学校としての取組

* CRT学力検査	学力把握	児童	4月・1月
* 学校評価	教育活動向上	保護者	1月
* 授業評価system	授業評価	児童	随時
* 漢字小テスト	漢字力把握	児童	随時
* 計算小テスト	計算力学力	児童	随時

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<ul style="list-style-type: none"> * 西部地区学力向上連絡協議会で本校の取り組みを発表（8月7日） * 研究成果の普及を目的に、半日日程での研究発表会を検討中。 * 平成15年7月に学校ホームページを公開。16年度については、研究の成果等を随時公開していく予定。
--

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】** 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】** 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】** 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】** 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】** 有 無